

奥能登にタンゴイワガサ

著者	川原 彰
著者別表示	Kawahara Toshiaki
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	41
号	1
ページ	20-20
発行年	1993-06-25
URL	http://doi.org/10.24517/00055690



○岩槻邦男 多様性の生物学 A5判, 15+174頁。1993年3月18日発行, 岩波書店, 2,800円。

同書店の大学一般教育用の教科書シリーズ「生物科学入門コース」の8冊目として発行されたのが本書である。8章からなり、後述の1, 2章があり, 3章が種の構造, 4章が種分化, 5章が種間の類縁, 6章が系統をあとづける, 7章が真核生物の系統, 8章が生物の分類体系となっていて, 親しみ易い線画と各所に挿入されたコラムがある。3-8の各章はここにタイトルを紹介しただけでも凡その内容は分かってもらえると思うが, 本書の特徴は何と言ってもその前にある。1, 2章ではなぜ生物は多様なのか, それはどう調べられるか, そして実際のどのくらい多様なのかというところで, 既知約150万種, 実際は1,000万種を越えるとの推定も紹介されている。そしてこれらを明らかにする生物誌編纂の必要性, 日本の植物誌, 環境の変動と種の動態として絶滅危惧の問題も取り上げられている。評者は一般教育担当という立場上, 大学生向けの「教科書」を随分見てきているが, フロラをまともに取り上げたのはおそらく本書が始めてだろう。そして, 地球生物保全の観点から絶滅危惧の問題もきちんと取り上げており, それらに対する理解が得られるという点で, 生物学が専攻でない学生も本書を学ぶことは意義が大きい。最近の教科書はかつての「一般生物学」というようなものは減り, 正に「多様化」し, テーマを絞って, しかも平易に展開している良書が増えてきた。本書は其中で植物の分類, 系統, 地理をDNAから化石までを使って, 正確に, しかも, 平易に説いている。大学の教科書としてだけでなく, 一般の人達, そしてなによりも我々植物を学んでいるものにも大変勉強になる本である。(鈴木三男)

○川原健彰：奥能登にタンゴイワガサ Toshiaki KAWAHARA: Occurrence of *Spiraea blumei* G. DON var. *obtusata* (NAKAI) SUGIMOTO in Okunoto, Ishikawa Prefecture

平成5年5月9日, 石川県鳳至郡能都町小垣で, タンゴイワガサ(ミツバイワガサ)の群生を発見した。生育地の標高は20~30m, 山の崖地に巾200mにわたって生え, ちょうど花の盛りであった。周囲にはクガイソウ・マルバアオダモ・ミツバウツギ・チャボガヤなどがみられる。この崖地の頂上には標高128.5mの三角点があり, 山の南側斜面がそのまま, 山田川の谷へなだれ込んだ姿で断崖を形成し, 急峻な形になっている。海岸までの直線距離は1.5kmで比較的海に近い位置にある。

小垣は能登半島の内浦, 半島の中央部よりやや北寄りにある。タンゴイワガサは, 従来「福井県以西の日本海側の海岸に生える」(佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 木本1:185, 1989)とされ, 渡辺定路氏の「福井県植物誌」(1989)には, 敦賀以西の産地だけが記録されている。小垣は敦賀以北の最初の発見地となる。標本は川原健彰8072(KANA 160854)。(〒923-12 石川県能美郡川北町草深そ10-1, So10-1, Kusafuka, Kawakita-cho, Nomi-gun, Ishikawa Prefecture 923-12)



奥能登で発見されたタンゴイワガサ, 平成5年5月16日, 能都町小垣で撮影